C　サーキュラースカートの製圖(Circular Skirt)

(第二十七圖。36頁の次に挿入)

この種類の形は,ヒップに於て身體に密着せしむるを常とす。故にスカートと身頃との接ぎ目に於て,其所のヒップの寸法に合せて身頃の幅をつめる。即ち第二十七圖の出來上り圖の例によれば,ウエイスト線より10糎下りたる所のヒップの寸法を度りてその寸法に合せる。尚又斯る密着したる形のものは,ウエイスト線に於ても身頃を刳り込みてプリンセスラインとす。

スカートの製圖は地質によりて差異あるべく,概して地厚の物は裾幅を狹く,地薄のものは裾幅を廣く作る。地薄のものは,前及び後の中央を布の緯絲を通し,兩脇を經絲を通して中央と脇線とが互に垂直をなすまでに擴げることさへあるものとす。地質とディザインとに應じて適當に定むるをよしとす。

嚴密に云へばサーキュラースカートは製圖のみにては完全に作り難きものなり。出來上りたる後に於て身頃とスカートとの接ぎ目より直ちに波のあらはるゝは不可にして,ヒップに於ては身體になるべく密着し,少しく下りたる所より波は現はれざるべからず。然るに製圖したるまゝのものは,その接ぎ目より直ちに波が現はる。故に布を裁ちてよりスカートの上部を十分に伸し,幅の餘りたるだけ脇に於てつめて縫ひ付けざるべからず。

キュラースカートの製圖(Circular Skirt)

(第二十七圖。36頁の次に挿入)

形は,ヒップに於て身體に密着せしむるを常
スカートと身頃との接ぎ目に於て,其所のヒッ
合せて身頃の幅をつめる。卽ち第二十七圖
圖の例によれば,ウエイスト線より10糎下りた
の寸法を度りてその寸法に合せる。尙又斯
る形のものは,ウエイスト線に於ても身頃を刳
リンセスラインとす。

の製圖は地質によりて差異あるべく,概して
裾幅を狹く,地薄のものは裾幅を廣く作る。
は,前及び後の中央を布の緯絲を通し,兩脇を
て中央と脇線とが互に垂直をなすまでに擴
へあるものとす。地質とディザインとに應じ
むるをよしとす。

へばサーキュラースカートは製圖のみにては
難きものなり。出來上りたる後に於て身頃
との接ぎ目より直ちに波のあらはるゝは不
ップに於ては身體になるべく密着し,少しく下
り波は現はれざるべからず。然るに製圖し
のものは,その接ぎ目より直ちに波が現はる。
裁ちてよりスカートの上部を十分に伸し,幅の
だけ脇に於てつめて縫ひ付けざるべからず。

第二十六圖

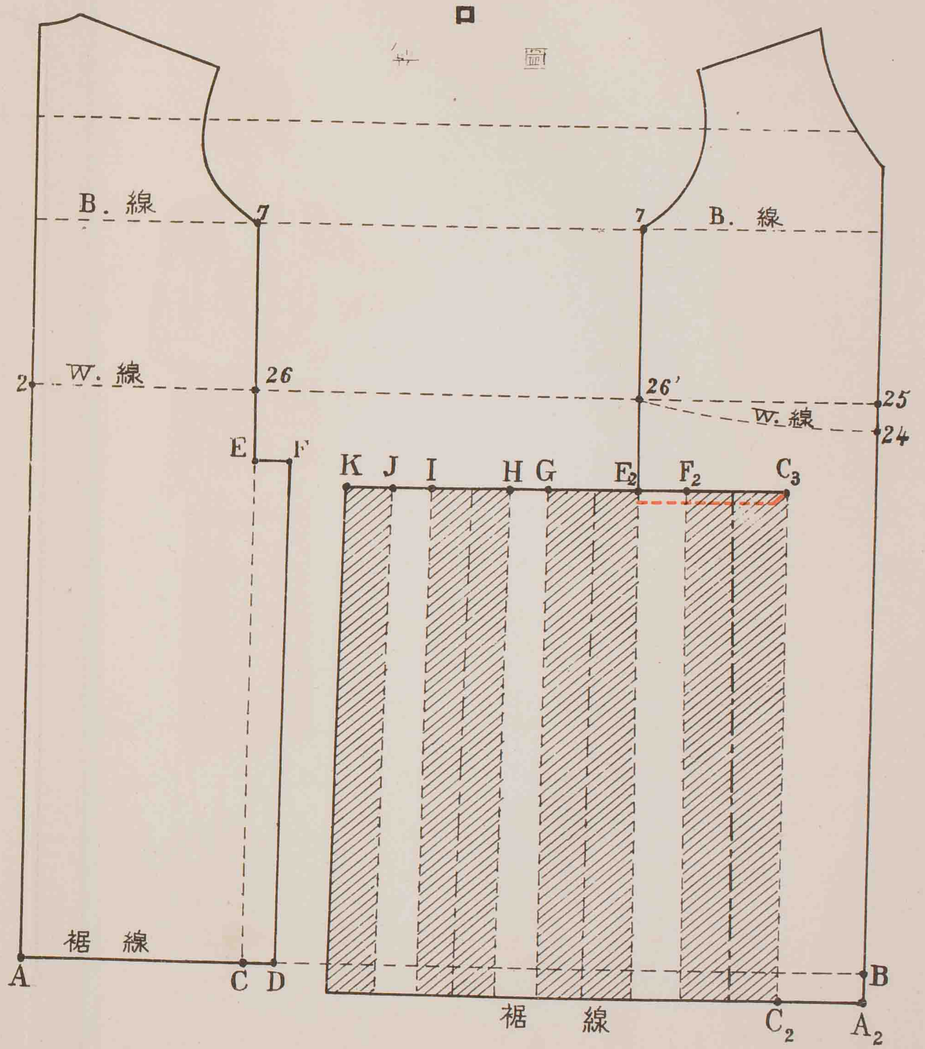
襞によりての裾の擴げ方

イ

出來上り圖

ロ

製圖



尙一はスカートの丈に狂を生ずることなり。卽ち布目が斜になりたる所は,板の上に置きたると,身頃に縫ひ付けられたる後とに於ては非常なる差を生ず。故に裾を床より何所も等距離に作る爲には,必ず裁ち直す必要を生ず。されど時としては,その不平均になりたるをその儘放置して裾を作り上げ,以て一種の變化を作ることもなきにあらず。若し裾を平均に作らんとせば,スカートを身頃に縫ひ付けてより一二日吊し置きて,斜の所を自然に十分に伸びしめたる後,着用者に着せて裾の線を作る。さればサーキュラースカートを製圖にて作りたる時は,粗雜なる木綿等にて型紙通りに裁ち,身頃に待針にて留めて着用者或はフォームに着せ,波の現はれ具合,長さ等を修正したる後,その木綿の布を型として實物を裁つを最上の方法とす。卽ちドレイピングを混用することによりて始めて完全なるものを作り得らるゝなり。

製圖の仕方。第二十七圖(ロ)及び(ハ)

A　2 =(スカート後丈)−(床より裾までの上り)。

B　25 = A 2。

C　2 = 10糎

D　C
E　A　} = $\frac{ヒップ}{4}$ − 0.7糎。且,W.線に平行。

F　= 7 よりB.線に出したる垂線とW.線との交點。

G　F =1.5糎乃至 2 糎。D, G, 7 を曲線にて結ぶ。

A_2　B＝24 25－(スカート後丈－スカート前丈)

C_2　25＝10糎＋A_2B。

D_2　C_2
E_2　A_2 ＝ $\frac{ヒップ}{4}$ ＋0.7糎。且,2 25線に平行。

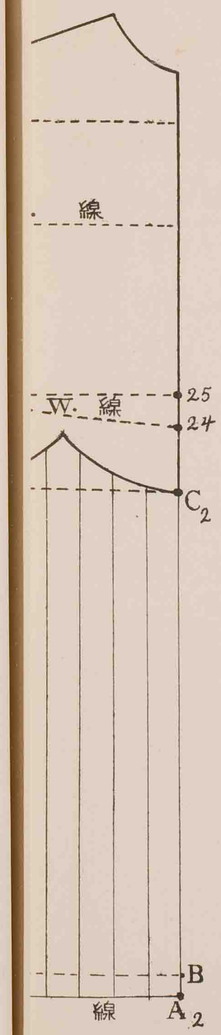
F_2　＝7′よりB.線に出したる垂線と2 25線との交點。

G_2　F_2＝1. 5糎乃至2糎。D_2,G_2,7′を曲線にて結ぶ。

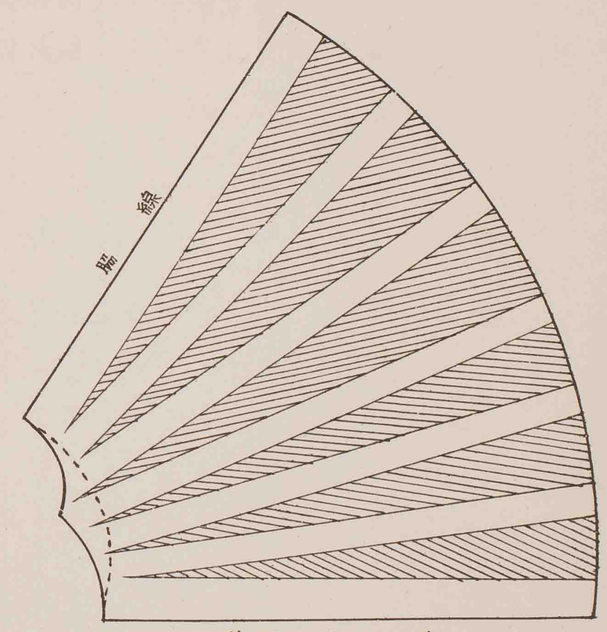
スカートは2. 5糎置き位に切り込みを入れて(ハ)圖の如く開き,その形に切る。開き方は前記の如し。

第二十七圖
ラースカートの作り方

製圖



ハ
スカートの製圖



後及び前の中央

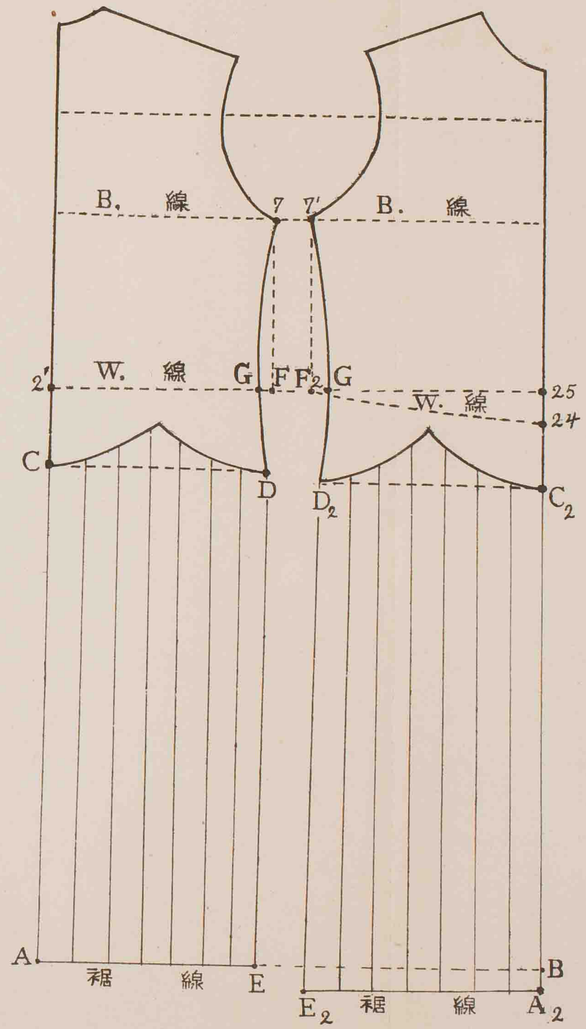
第二十七圖
サーキュラースカートの作り方

イ

出來上り圖

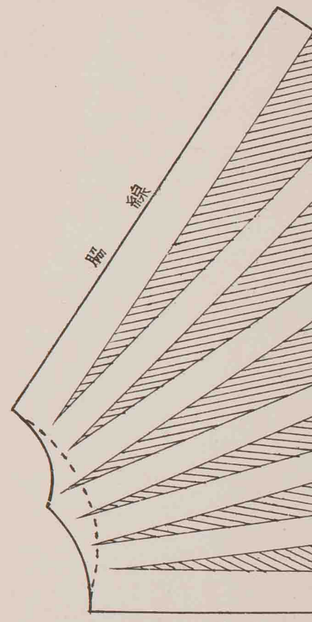
ロ

身頃の製圖



ハ

スカートの製



後及び

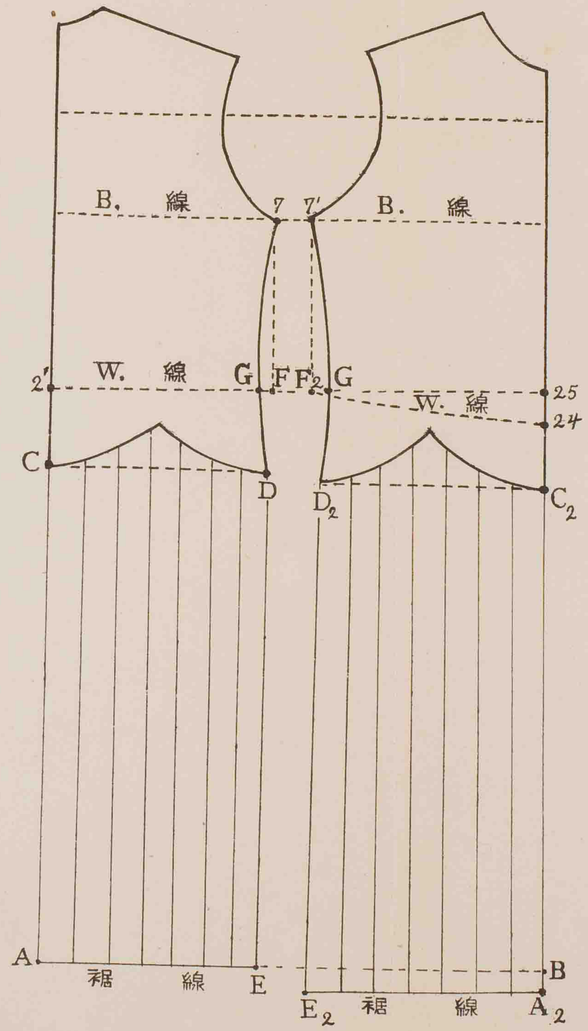
第二十七圖
サーキュラースカートの作り方

イ

出來上り圖

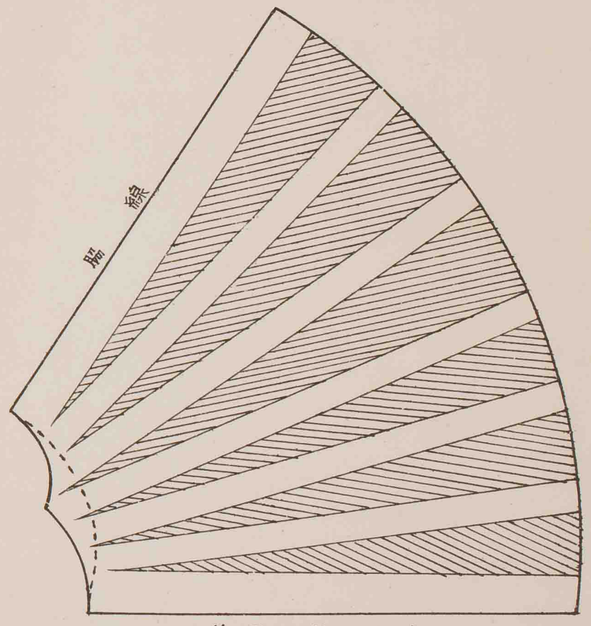
ロ

身頃の製圖



ハ

スカートの製圖



後及び前の中央

Ⅱ ダート (Dart)

A ダートの必要

1 裾の布目を眞直に保つ爲。

2 乳部の突起の爲に必要なる餘裕を作る爲。

3 後身頃が前にひかれて肩の縫目が前に寄ることを防ぐ爲。

B ダートの位置

1 脇の縫目に一つ或は二つ作るもの。

2 肩に於て作るもの。

3 チェストに於て作るもの。

4 ベルトの下にて作るもの。ヒップダートとも云ふ。

C ダートの所置

1 斜に縫ひ込むもの。

2 ギァザーを寄せるもの。

D 製圖の仕方

1 脇の縫目に作るもの(Under Arm Dart)

イ 一箇のダートの作り方

A　7′＝3糎。

B　A＝身頃の前後の差。(第二十八圖參照)

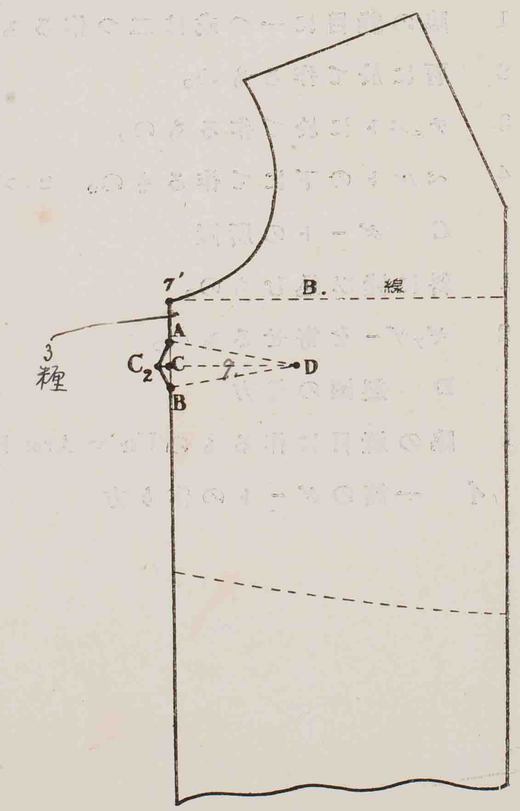
C　　＝ＡＢの中央。

D　C＝9糎。

C_2　C＝ＡＤ線とＢＤ線とを合せて折り。ＡＣの直線に合せて切る。

第二十八圖

脇縫のダートの作り方(一箇のもの)



ロ　二箇のダートの作り方

(第二十九圖。48頁の次に挿入)

若し身頃の前後の差が2.5糎を越ゆる時は,二箇のダートを作る。

A　7′＝3糎。

B　A
C　B　＝(身頃の前後の差)×$\frac{1}{4}$。

D　C＝2糎。

E　D
F　E　＝(身頃の前後の差)×$\frac{1}{4}$。

G　B
H　E　＝8.5糎。

ＢＧはＢ.線に平行。

ＥＨはＣＧ線に平行。

B_2,E_2の定め方は,各ダートを折りてピンにて留め脇の直線に合せて切る。

2　肩に作るもの(Shoulder Dart。第三十圖)

原型の前身を寫し,衿刳を好みの形に作りてより(イ)圖の如く切り込みを入れる。

A,Bの位置は凡そ肩幅の中央にしてその傾き方は袖附の刳に平行の心持ちにて作る。

以上の如く作りたるものを,製圖したるドレッスの前身にのせ,7′の點を身頃の前後の差だけ下げて切り込みを開く。(ロ圖)

7″　7′＝身頃の前後の差。

A　A_2 ／ B　B_2 ＝切り込みを開きてこの二つを同寸法にす。

C　＝新しく定まりたる肩の端。

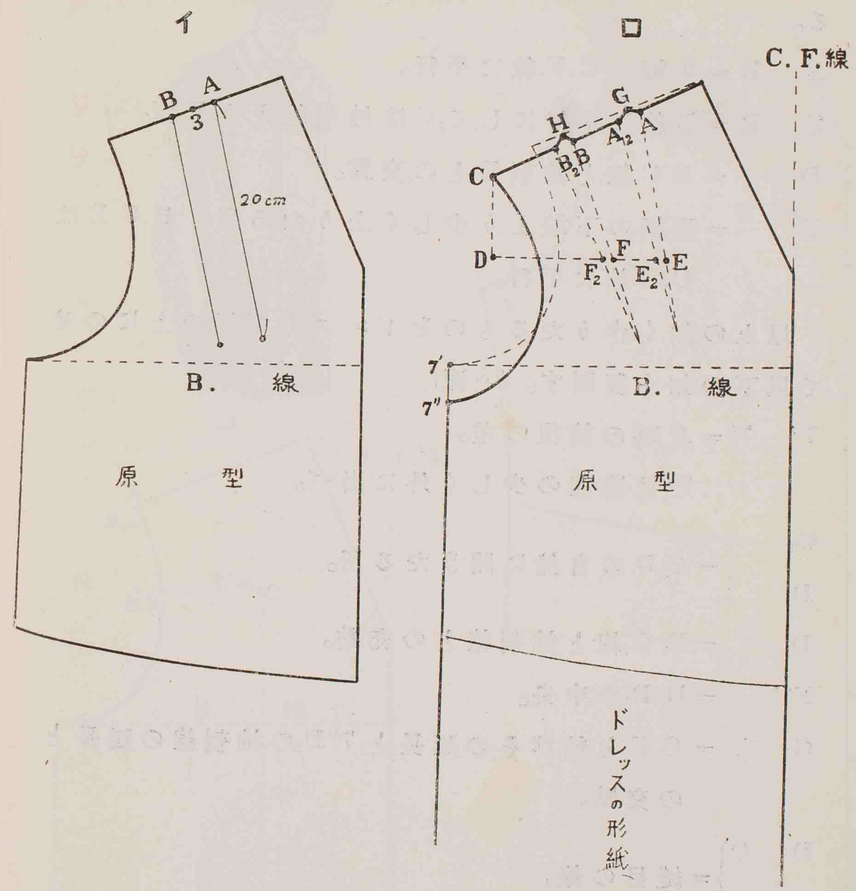
D　C＝9糎。C.F.線に平行。

E　D＝B.線に平行。E E_2,F F_2はダートの縫留り。

G ／ H ＝AEをA_2E_2に,BFをB_2F_2に合せてダートを折り,肩の線に合せて切る時は自ら定る。

第三十圖

肩のダートの作り方



3　チェストに於て作るもの(Chest又はArmhole Dart。第三十一圖)

原型の前身を寫して切り,(ロ)圖の如き切り込みを入れる。

A　B＝9糎。C.F.線に平行。

C　B＝B.線に平行にして,Cは袖刳線より7糎。

D　＝BC線と袖刳線との交點。

E　＝型紙の下端より少しく上りたる所。且,CEはC.F.線に平行。

以上の如く作りたるものをドレッスの型紙の上にのせて以下の如く製圖す。(ハ圖)

7″　7′＝身頃の前後の差。
　　7″は脇線の少しく外に出づ。

C_2, D_2 ＝C,Dの自然に開きたる所。

D_3　＝D_2C_2線と袖刳線との交點。

F　＝D D_3の中央。

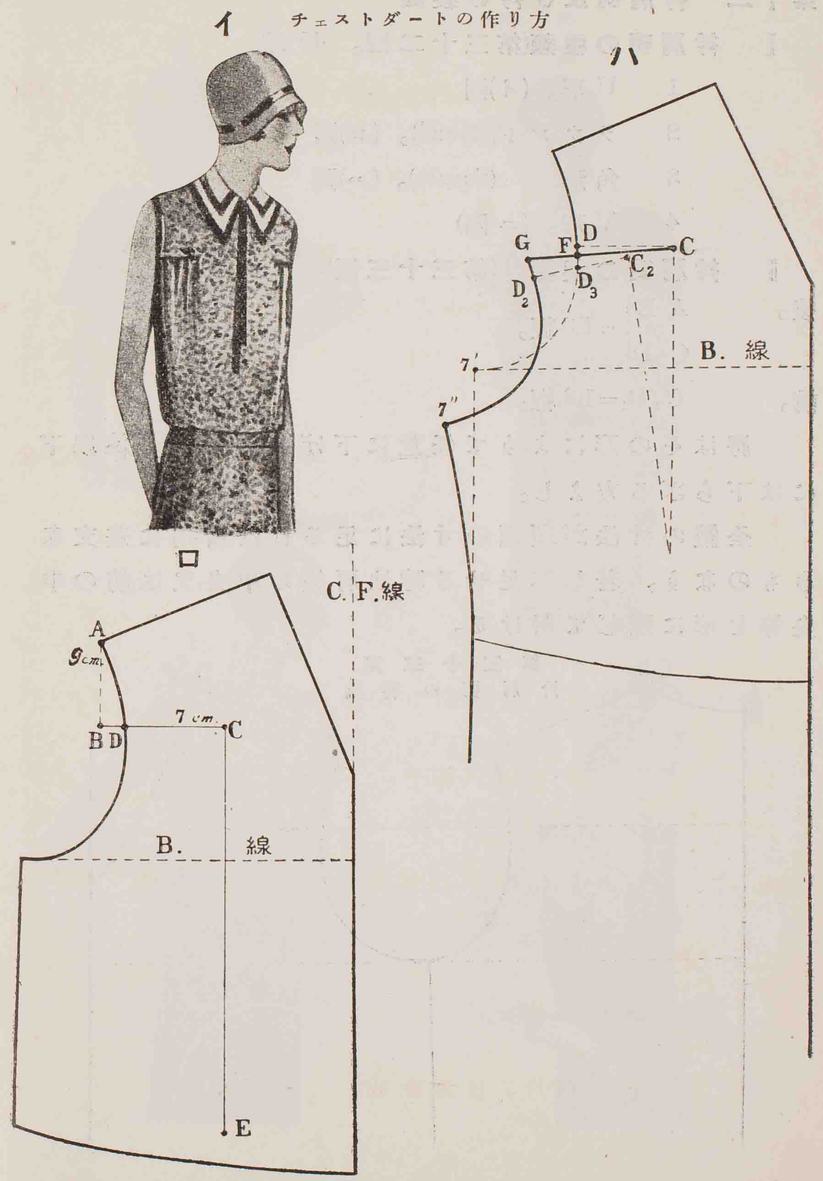
G　＝C,Fを結びその延長と7″D_2の袖刳線の延長との交點。

D-C, D_2-C ＝縫目の線。

C F G $D_2$7″は裁斷線。

第三十一圖

チェストダートの作り方



第十二　衿肩明及び衿の製圖

Ⅰ　衿肩明の種類(第三十二圖。45頁)

1　U形。(イ)圖

2　ラウンド(Round)。(ロ)圖

3　角形　(Square)。(ハ)圖

4　V形。(ニ圖)

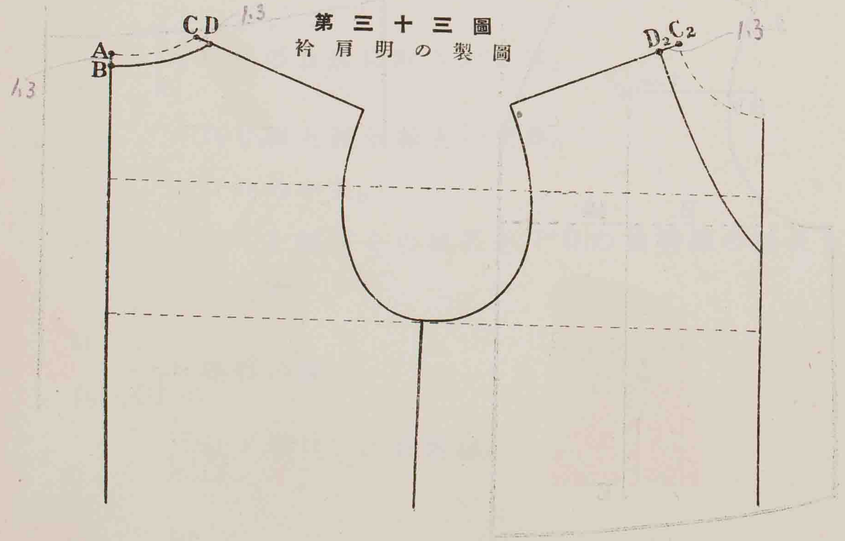
Ⅱ　衿肩明の製圖　(第三十三圖)

後。　A B / C D ＝1.3糎。

前。　C_2D_2＝1.3糎。

腰はその形によりて任意に下げる。但しB.線以下には下らざる方よし。

全體の寸法が頭圍の寸法に足るれば着用に差支なきものなり。若し不足せる時は肩,後の中央,又は前の中央等を形に應じて明ける。



第三十三圖
衿肩明の製圖

第三十二圖
衿肩明の種類

Ⅲ　衿の種類

A　形を變へ得ざる衿　Nonconvertible Collar

イ　フラットカラー　Flat Collar

ロ　ローリングカラー　Rolling Collar

ハ　タキシードカラー　Tuxedo Collar

ニ　ケィプカラー　Cape Collar

B　形を變へ得る衿　Convertible Collar

イ　ノッチドカラー　Notched Collar

ロ　スクェヤーカラー　Square Collar

Ⅳ　衿の製圖

A　フラットカラー　(第三十四圖)

圖の如く後前の肩を突き合せにして,ドレッスの上部の形を寫して衿の製圖をなす。フラットカラーはこの形一つに限れるにはあらざるを以て,ディザインに應じて衿幅等は或は廣く,或は狹くす。されどA_3B_3卽ちカラーの丈は,常に衿肩明のA_2B_2より0.7糎短かくす。

A　A_2= 2糎。

B　B_2= 4糎。

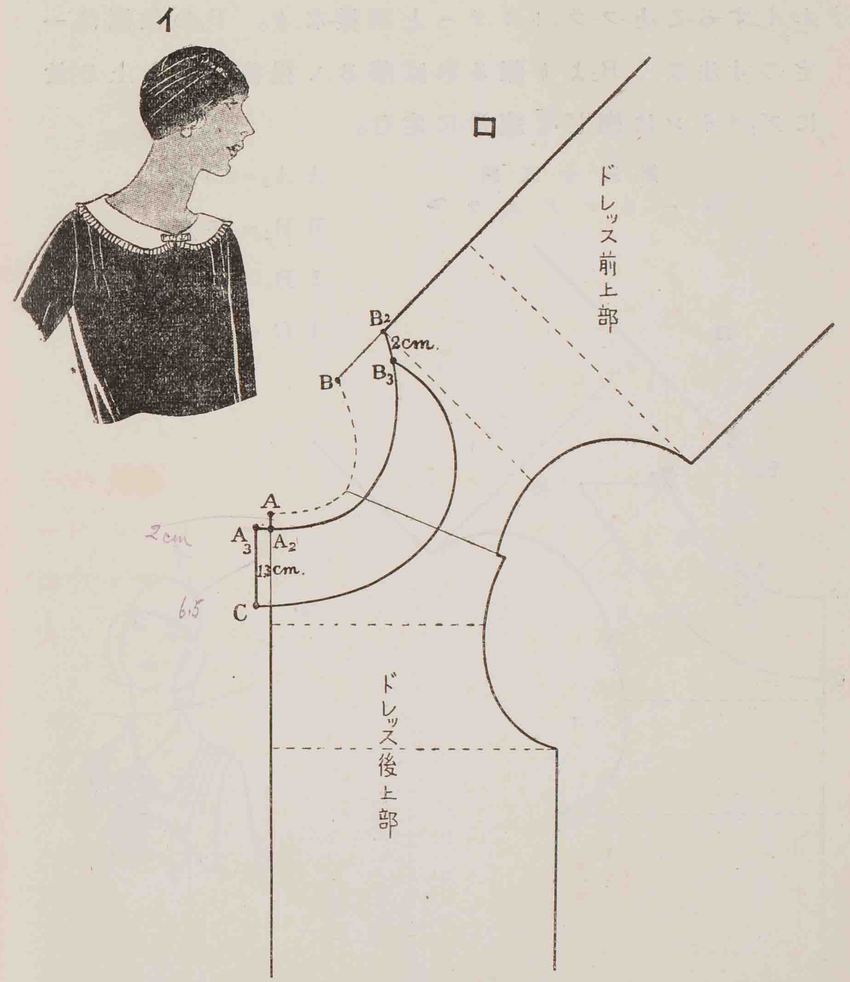
A_2　A_3= 1.3糎。

B_3　A_3= B_2A_2 − 0.7糎。

C　A_3= 6.5糎。

第三十四圖

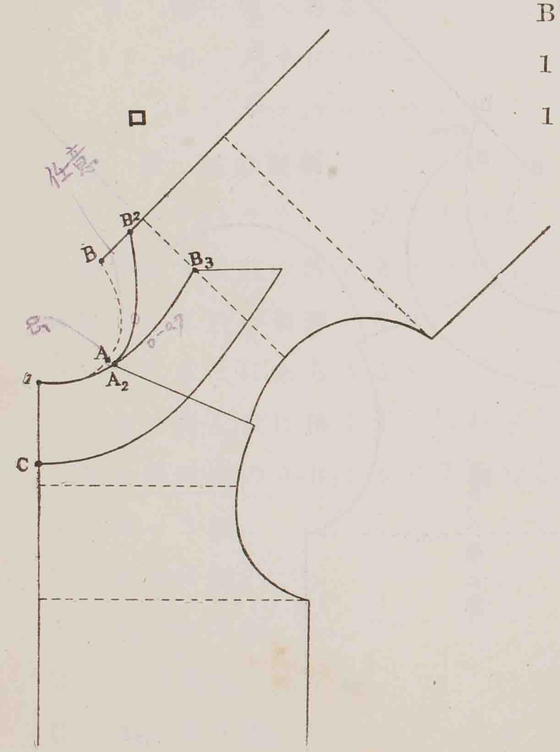
フラットカラー



B　ローリングカラー（第三十五圖）

ドレッスの衿廻りの寸法A_2B_2より衿丈A_2B_3を0.7糎短かくすることフラットカラーと同様なり。B_3の位置は一定の寸法なくB_2より離るれば離るゝ程後が巻き上る故にディザインに應じて適當に定む。

第三十五圖
ローリングカラー

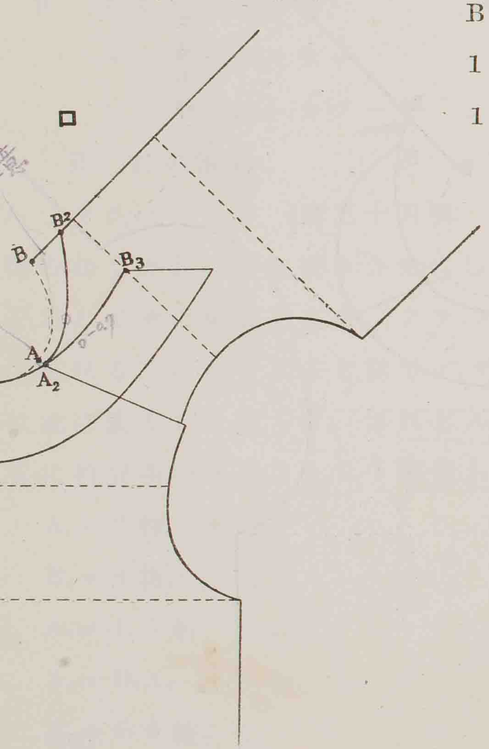


A A_2=0.5糎。
B B_2=任意
1 B_3=1 B_2−0.7糎
1 C＝任意

B　ローリングカラー　(第三十五圖)

ドレッスの衿廻りの寸法A_2B_2より衿丈A_2B_3を0.7糎短くすることフラットカラーと同様なり。B_3の位置は一の寸法なくB_2より離るれば離るゝ程後が巻き上る故ディザインに應じて適當に定む。

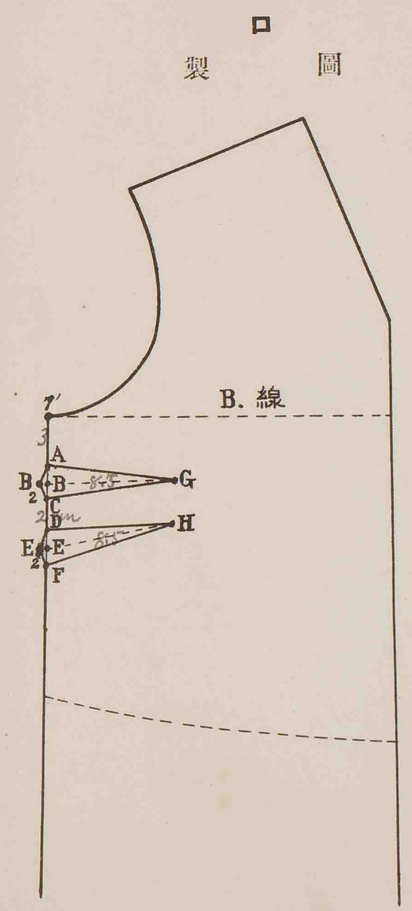
第三十五圖
ローリングカラー



A A_2=0.5糎。
B B_2=任意
1 B_3=1 B_2−0.7糎
1 C=任意

第二十九圖

脇縫のダートの作り方(二箇のもの)



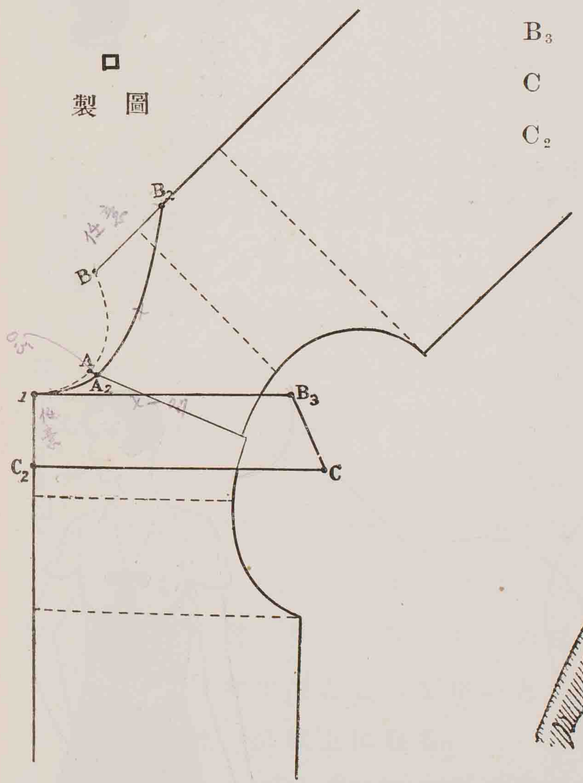
C　タキシード（第三十六圖）

後は衿幅が全く二つに折れる。即ちローリングの最もロールしたるものなり。

第三十六圖
タキシード

A_2　A＝0.5糎。
B_2　B＝任意。
B_3　1＝$B_2$1－0.7糎
C　B_3＝任意。
C_2　1＝任意。

ロ
製圖



イ
出來上り圖

D　ケイプカラー　(第三十七圖)

(イ)圖の如く後の巻き上らざるものと，(ロ)圖の如く巻き上りたるものとの二種あり。(ハ)圖は(イ)圖の形の製圖の仕方なり。(ロ)圖のものはローリングカラーに同じ。

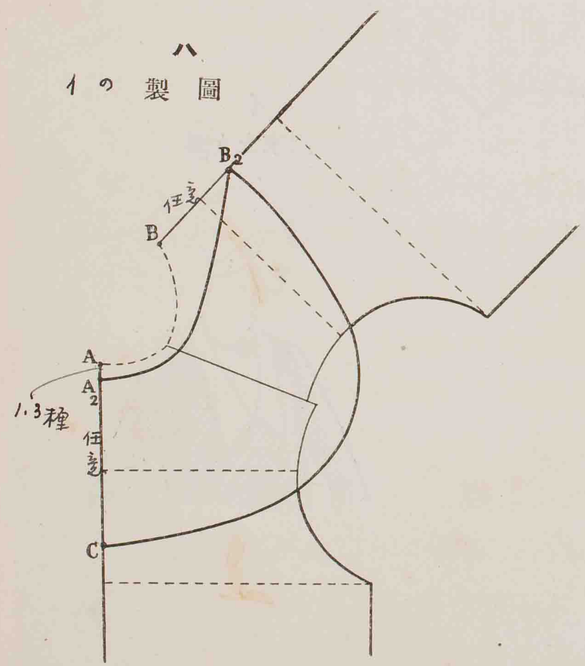
A　A_2＝1.3糎

B　B_2＝任意

A　C＝任意

イ　出來上り圖

第三十七圖
ケイプカラー



ロ　出來上り圖

E　ノッチドカラー　(第三十八圖。58頁の次に挿入)

12′　1＝ネックの採寸に2.5糎加へたるものゝ六分の一。

13′　12′＝1.3糎。

20′　＝胸幅の中央。

20″　20′＝0.7糎。

21′　20″＝1.3糎。

22′　21′＝13′11－0.7糎。

F　21′＝2糎。

衿の開きを定めて折目の線をFよりひく。衿の開きは好みによりて同じからず。多くは5の點位までなれども時としてはB.線とW.線との中央位まで下ることあり。次に折目の線より(ハ)圖の如く折りて恰好よく23′を定む。衿の開き低ければこの點も低く,高ければこの點も高し。次に再び(ロ)圖の如く擴げて21′，23′に前衿肩を畫く。G,23′の間は斜線にて少しの丸味をも加へず。

G　＝折目の線と衿刳との交點。再び折目より折る。

H　F＝後衿肩。即ち1 13′。FGの延長線上にとる。

HGを半徑としGを中心として弧を畫く。

I　H＝1.5糎。弧線上に取る。

IよりIG線に直角に左右に線を出す。

J　I＝2.5糎。

K　I＝3.5糎。

L　K＝0.5糎。J,Lを結ぶ。

M　G＝IK。

N　23′＝ディザインによる。約3糎。

O　N＝N23′。L,Oを結びて形を作る。

F　スクェヤーカラー（第三十九圖）

12′, 13′, 20′, 20″, 21′, 22′, F, Gの作り方は全くノッチドカラーと同じなり。(51頁參照)

衿は單に長方形の物を衿丈に合せて裁ちて用ひても可なれど,若し製圖する時は以下の方法による。

H　G＝G21′の曲線の長さに後衿肩113′を加ふ。

I　＝HGを半徑としGを中心としてHより弧を畫き弧と23′Gの延長線との交點。

J　I＝好みの幅。約7.5糎。

K　J＝23′I。且,平行。K,23′を結ぶ。

衿先の形はK23′の儘とするも,或は523′の延長線のLとするも可なり。ディザインと好みとによりて定むるをよしとす。

斯く製圖したるものは衿の後,約21′Fと等しきだけ立つ。故に若し衿を後に於て一層高く立てんとする時は(ハ)圖の如く製圖す。

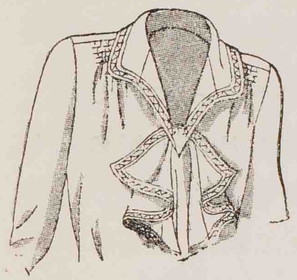
H點よりL點までの定め方は前の物と同じ。

M　I＝1糎乃至1.5糎位までに好みによりて定む。

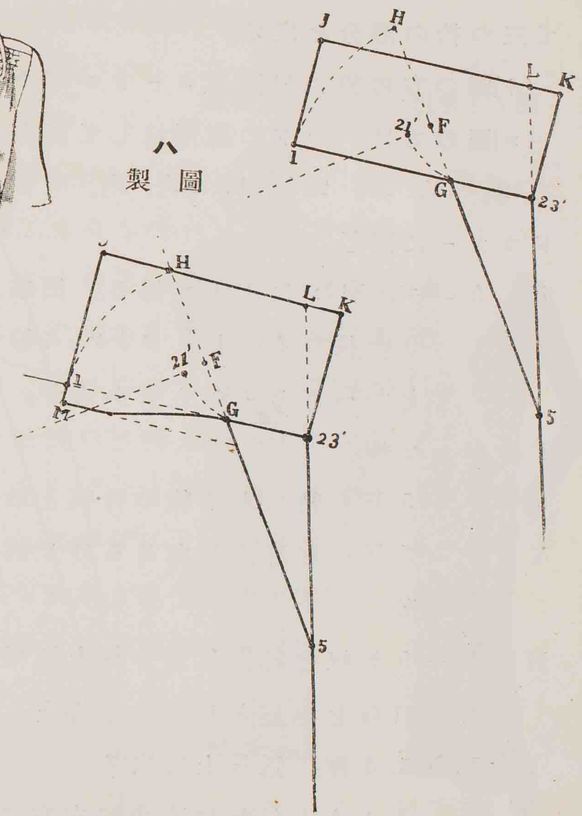
MGを圖の如き線にて結ぶ。

第三十九圖

スクェヤーカラー



イ　出來上り圖



G　ショウルカラー

ローリングカラーの一種にして作り方に二種あり。一は第四十圖(イ)の如く，全く衿刳の形に身頃を裁落したるものにして，この場合には衿布に身頃と配合よき

別布を用ふること多し。他の一は(ロ)圖の如く身頃の部を折返して衿としたるものにして,この場合裏衿は三つ衿の所にだけ付けて,表衿は身頃のフエィシングより續けて三つ衿の部分を取る。

(イ)圖の方の衿の製圖はローリングカラーに同じ。

(ロ)圖の方はノッチドの應用にして卽ち第四十圖の如し。

12′, 13′, 20′, 20″, 21′, 22′, F, Gの作り方はノッチドカラーに同じ。

5′　5＝ディザインによりて異る。出來上り圖のものは8糎位なるべし。ジャケット等は全く前の重りを加へざるものも少からず。

F　21′＝2糎。

G　＝5,Fを結びたる線の衿刳との交點。

Y　＝5F線を延長したるものゝ前の端に接したる所。

H　F＝5F線を延長したる線上にて後衿肩に採る。HGを半徑としGを中心として弧を畫く。

I　H＝1.5糎。弧線上に取る。IよりIG線に直角に左右に線を出す。

J　I＝2.5糎。

K　I＝好みによる。出來上り圖は3.5糎位。

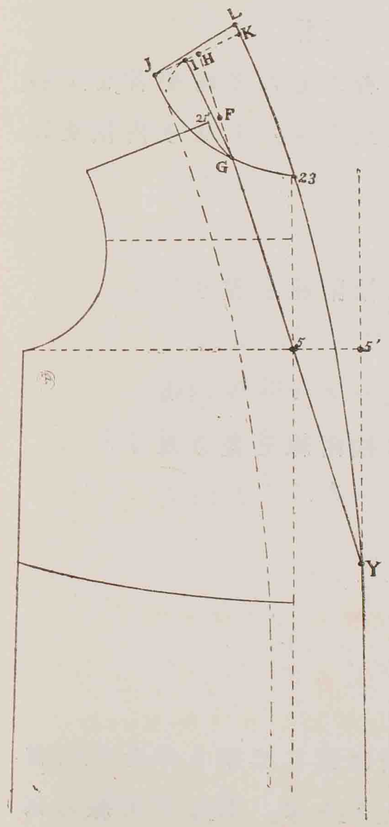
L　K＝0.5糎。J,Lを結ぶ。Lより始まりてYに終る線を畫く。23には必

ず接するものと限らず。

フエィシングは外側を裏衿と身頃と續きたる形に,內側を鎖線の如く取る。故にその全形をトレィサーにて寫し置きてより衿の形を切り離すべし。

第四十圖
シヨツルカラー

ハ
製圖



ロ
出來上り圖

イ
出來上り圖

第十三　ブラウズ。ドロップショゥルダー

(Blouse. Drop Shoulder. 第四十一圖。58頁の次に挿入)

前肩の上部5糎程を後肩に續けて裁ちたるをドロップショゥルダーと云ふ。卽ち第四十一圖の如し。緩やかに感ぜらるゝを以て,殊にブラウズに多く用ひらるれどもドレッスにも亦用ひらる。此所にはブラウズに就きて記せり。但し衿に就きてはその項參照(46頁より55頁)

先づ原型を寫すことドレッスと同樣。

A　1＝任意の長さに定む。着用したる時手首までの長さ位に定むるを普通とす。3より內袖丈に定むるも可なり。

B　25＝A 2。

C　7＝0.7糎。7Cの間に袖附線を畫き足す。

D　A＝C 3。

A_2　B＝24 25－(スカート後丈－スカート前丈)。

C_2　7′＝0.7糎。7′C_2の間に袖附線を畫き足す。

D_2　A_2＝C_2 5。

E 22 ｝＝5糎。
F 21 ｝

X　C_2＝2.5糎。

C_3　X＝A_2B。

E_2　＝EC_2の袖附線を別紙に寫して切り,C_2をC_3に當て,Eの當りたる所をE_2とす。E_2はFE線の延長線上のこともあるべく,又A_2Bの寸法の多少によりて延長線より上ることも下ることもあるべし。FE_2を結ぶ。

前肩21を後肩13に,22を後肩と突き合せにして置き,後肩の11より前のEまでの形を直す。

以上にて身頃の製圖を終る。この場合にはチェストにダートを作りたる物と同樣の意味に於て前後の差が始末されたれど,ディザインに應じて種々なる方法を採ることドレッスに同じ。その各部に於ける小變化は暫く措きて,ブラウズとして共通の點を擧ぐれば以下の如し。

1　丈が脇に於て內袖丈と略等しきこと。

2　バストの弛みが後前各0.7糎宛,身幅全體にては2.8糎原型より多きこと。

3　2の變化に應ずる爲に袖の太さも亦後前各0.7糎。全體にて1.4糎大きくすべきこと。

4　肘曲り,袖口等に於ける袖の太さも亦ドレッスより稍弛く作るべきこと。

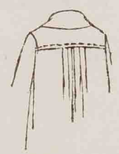
第十四　スモック (Smock)

ドレッスの一種にして,上つ張りとして普通のドレッスの上に用ふること多し。故にドレッスよりは遙に緩やかに作る。今こゝには第四十二圖の如きディザインに就きて掲ぐ。脊及び前の縫縮めにスモッキングをなす時は一層面白きものとなる。

イ　前

第四十二圖
スモック出來上り圖

ロ　後



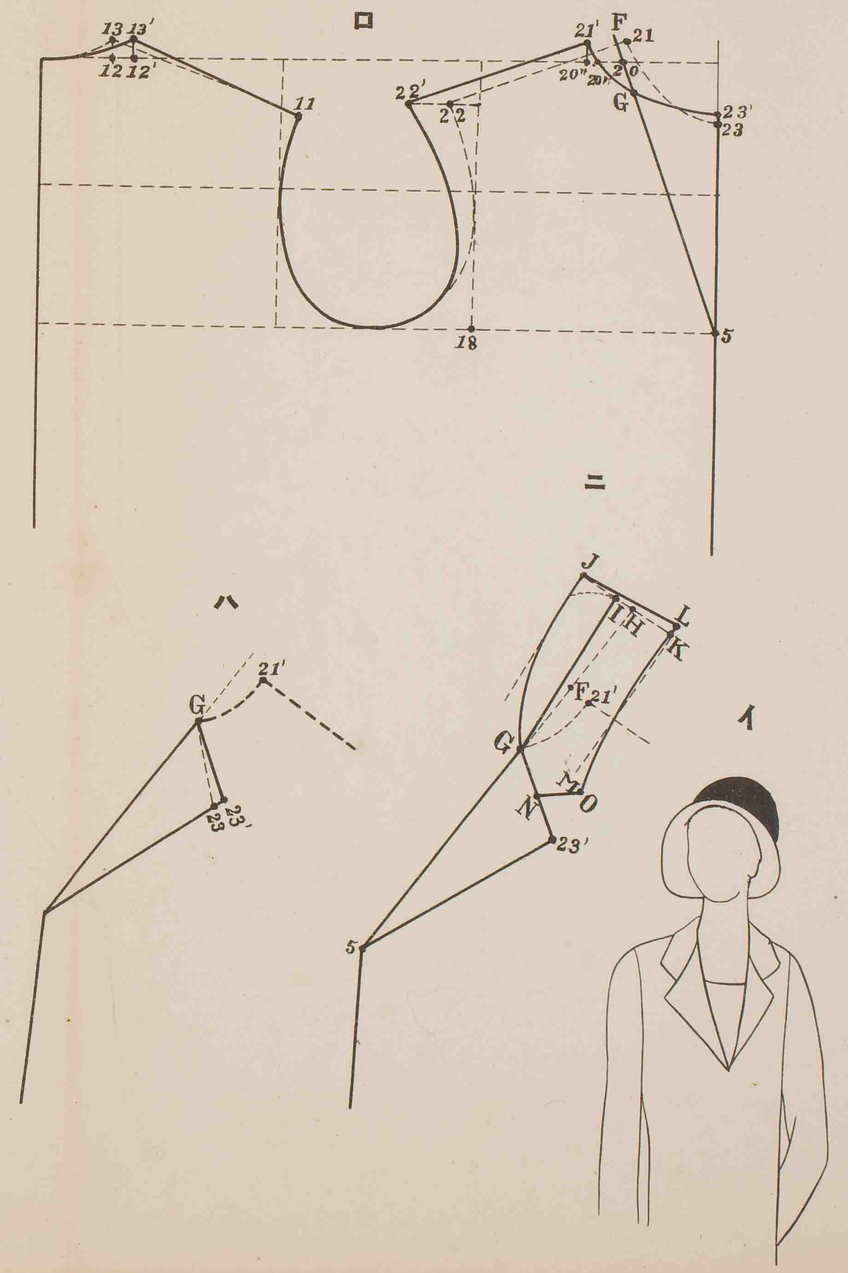
)

つ張りとして普通のドレッス
故にドレッスよりは遙に緩やか
十二圖の如きディザインに就き
めにスモッキングをなす時は一

第四十二圖
スモック出來上り圖

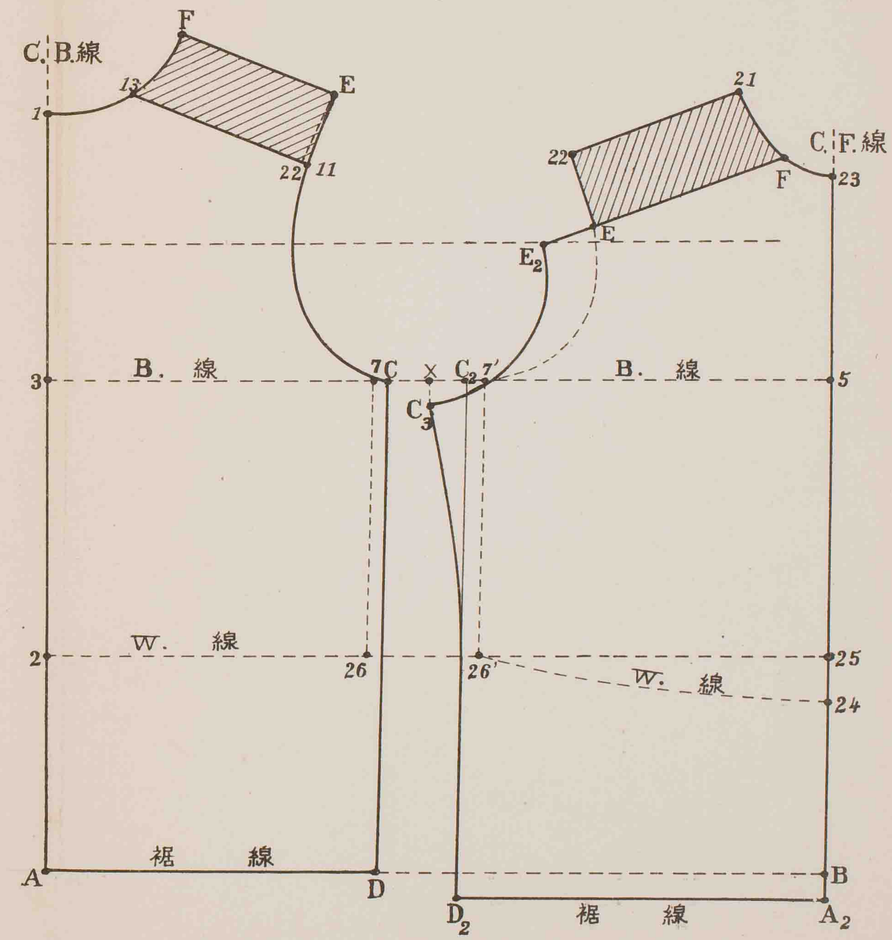
ロ 後

第三十八圖
ノッチドカラー



第四十一圖

ブラウズ(ドロップショウルダー)



先づ原型を寫す。（第四十三圖。60頁の次に挿入）

A　1＝出來上り丈。ドレッスと同寸か又は少し短かく。

B　25＝A 2。

C　7＝2.5糎。

D　A＝C 3。

E　C＝4糎。

11′　11＝2.5糎。袖附線を畫き直す。

F　4
G　8　＝1.5糎。

H　F＝7.5糎。

H　I＝F A。且,平行。

12′　1＝(ネック＋2.5糎)÷6

13′　12′＝1.3糎。1,13′に後衿肩を畫き直す。

5′　5＝1.5糎。前の重なりの二分の一。

A_2　B＝24 25（スカート後丈－スカート前丈）。

C_2　7′＝2.5糎。

E_2　C_2＝4糎。

X　E_2＝4糎。

E_3　X＝A_2B。

E_3　D_2＝5′ A_2に平行。

Y　＝18 5の中央。

20′　＝YよりB.線に出したる垂線とN線との交點。

20″　20′＝0.7糎。

21′　20″＝1.3糎。21′,5′に前の刳を畫く。

22′　21′＝13′11－0.7糎。

22″　22′＝2.5糎。22′ 21′の延長線上にとる。22″よりE_2に袖附線を畫き直す。

$\left.\begin{array}{l}F_2\ 21'\\G_2\ 22''\end{array}\right\}$＝5糎。

G_2E_2の袖附線を別紙に寫して切り取り,E_2をE_3に移して袖附線を畫き直しG_2の接したる所をG_3とす。

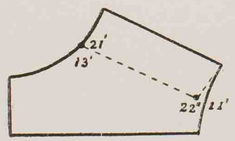
G_3,F_2を結ぶ。

ヨーク　(Yoke)

第四十四圖の如く後の13′と前の21′とを突き合せにして置き,袖附の方の肩幅の不揃ひを恰好よく直す。

第四十四圖

ヨーク



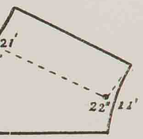
前の刳を畫く。

延長線上にとる。22″よりE_2に
す。

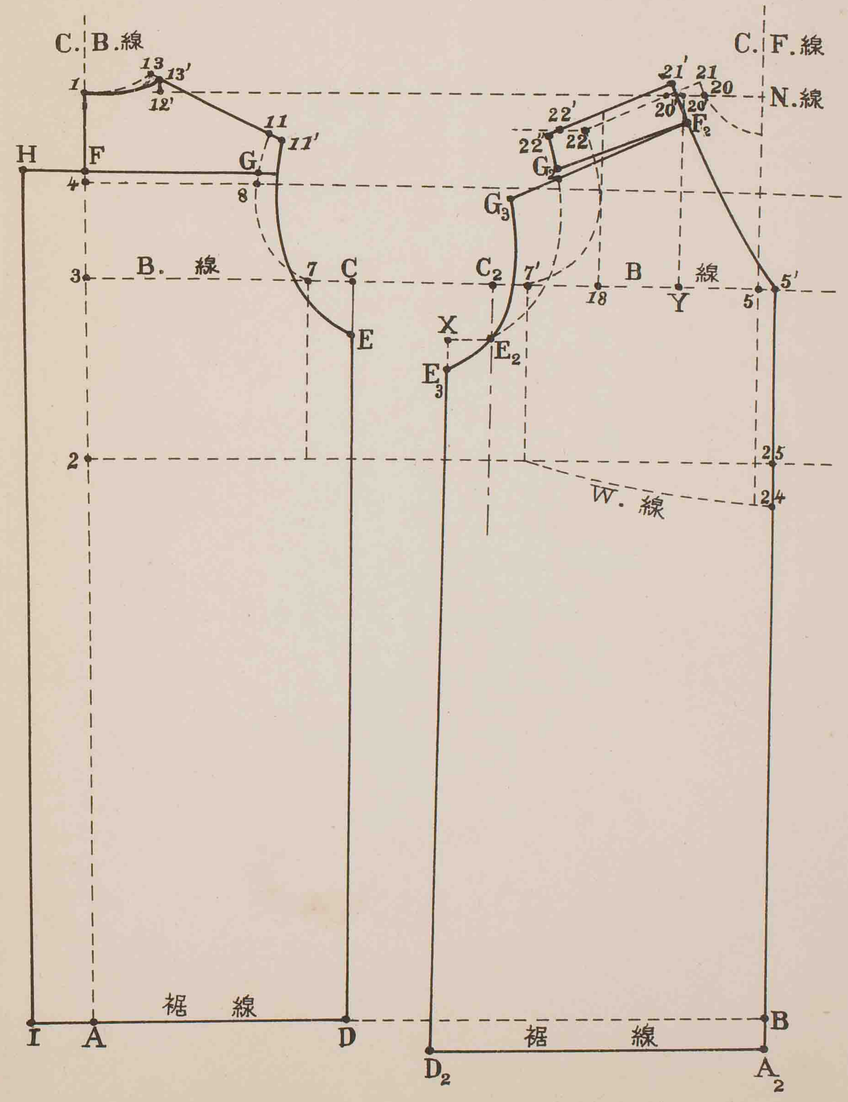
寫して切り取り,E_2をE_3に移し
接したる所をG_3とす。

13′と前の21′とを突き合せにし
不揃ひを恰好よく直す。

十四圖
ー　ク



第四十三圖
スモック身頃の製圖



スリーヴ（シャートスリーヴ。Shirt Sleeve）（第四十五圖）

A　B ＝ $\frac{\text{袖刳周圍}}{4}$。

C　A ＝ 外袖丈 －2.5 糎。

D　A ＝ $\frac{\text{袖刳周圍}}{2}$。

E　A
F　D ＝ $\frac{\text{A D}}{3}$

G　E ＝ 2 糎。

H　F ＝0.5 糎。

I　＝ D より B D 線に垂直に出したる線と袖口線との交點。

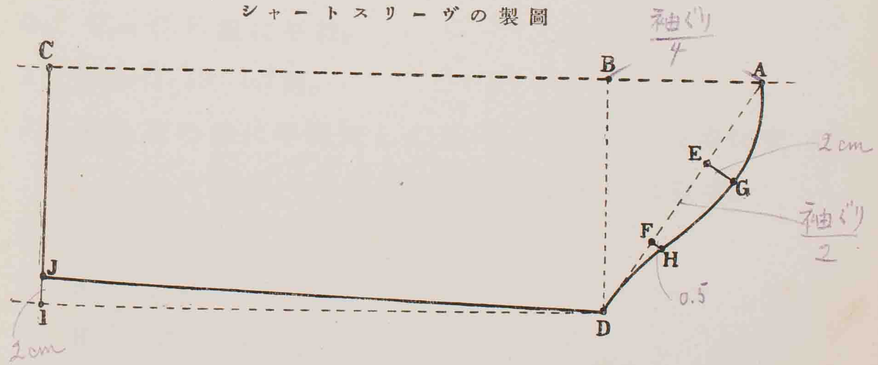
J　I ＝ 2 糎。

この袖には後前の差別なし。

衿はローリングカラー。

第四十五圖

シャートスリーヴの製圖



第十五　キモノスリーヴドレッス

(Kimono Sleeve Dress)

肩に縫目を付けたるものと然らざるものとあり。肩に縫目を付けたるものはフレンチスリーヴ等とも稱せらる。大人物には多くこの方を用ふ。肩に縫目なきものは型紙を作るほどのことなく,單に寸法のみにて裁ち得らるべし。肩に縫目を付くるものは先づ原型を寫してより次の如く製圖す。(第四十六圖。72頁の次に挿入)

衿肩明,衿等に就きてはその項參照。

ダートは脇の下又はベルトの位置等に作る。圖は脇の下に作りたるものなり。

裾の擴げ方もこれのみに限れるにあらず。ディザインに應じて變化する必要あり。

A　1＝ドレッス丈。

B　25＝A 2。

C　A＝7 3。

D　7＝3糎。

E　C＝$\frac{バスト}{12}$。

F　7＝4糎。

G　F＝C.B.線に平行。

H　＝13 11の延長線とF G線との交點。

I　H＝1.5糎。13 11の延長線上に採る。

J　D＝肩線に平行にして且,JはG Fの延長線に交りたる所。Dの角を3糎位宛の丸味に直す。

A_2　B＝24 25－(スカート後丈－スカート前丈)。

C_2　A_2＝7′ 5。

E_2　C_2＝$\frac{バスト}{12}$。

F_2　7′＝4糎。

G_2　F_2＝C.F.線に平行。

I_2　21＝I 13－0.7糎。

J_2　D_2＝肩の線に平行にして且,J_2はG_2F_2の延長線に交りたる所。D_2の角を3糎宛の丸味に直す。

K　D_2＝3糎。

L　K
M　K　＝$\frac{A_2B}{2}$。

N　K＝9糎。

第十六　エポゥレットスリーヴ(Epoulet Sleeve.　第四十七圖)

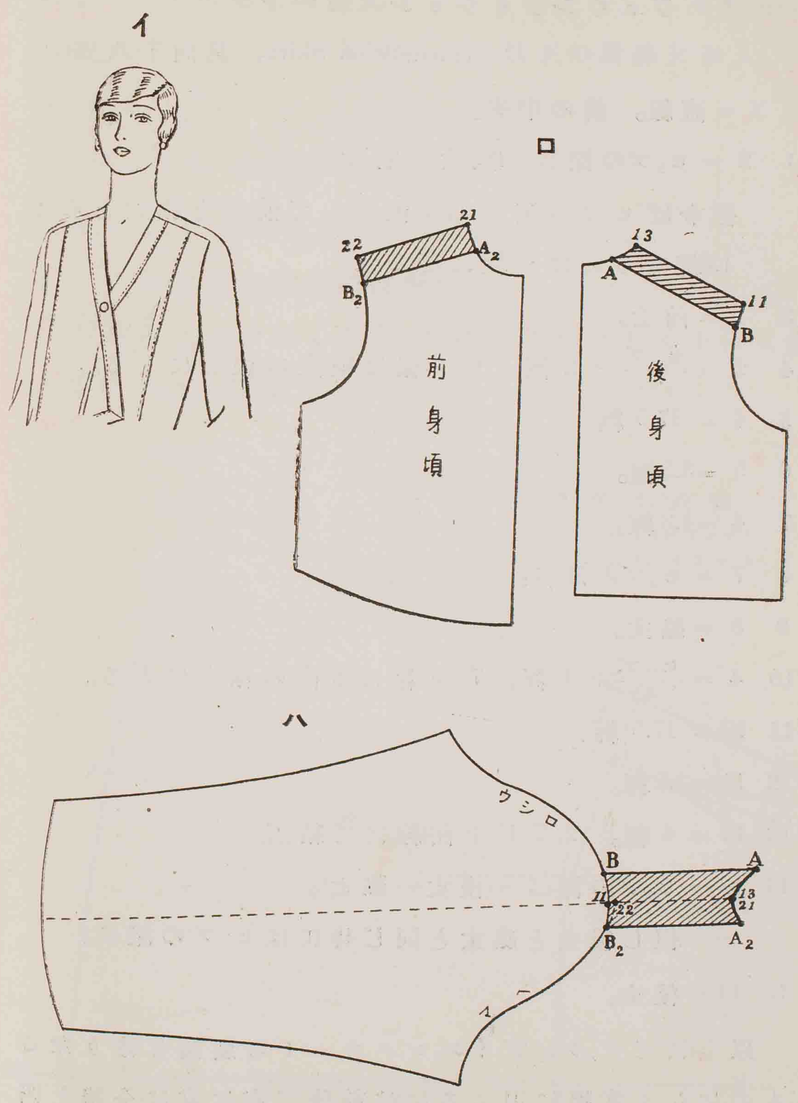
主としてブラウズ,コート等に用ふれどもドレッスにも亦用ひらる。

A　13
B　11
A_2　21
B_2　22
＝2.5糎。

袖の形を寫して中央線を15糎程伸し,その線と後肩の11,13とを圖の如く合せ置き,前肩の21を13に合せ置く時は,22と袖附線との間は少しく間隙を生ずるを,その儘袖より肩まで續けて裁ち直す。

第四十七圖

エポゥレットスリーヴ



第十七　スカート (Skirt)

I　ファウンデイションスカート

(Foundation Skirt。第四十八圖)

X X＝直線。前の中央。

1　2＝ヒップの深さ－(脇丈－前丈)。

假令ばヒップの深さ17.5糎にして,前丈と脇丈との差1.5糎なる時は16糎に度る。

3　1＝前丈。

4　2＝$\frac{ヒップ}{4}$＋2糎。C.F.線に垂直の線上にとる。

5　4＝17.5糎。

6　5＝3.5糎。

7　4＝1.3糎。

8　7＝ヒップの深さ。

9　8＝脇丈。

10　4＝$\frac{ヒップ}{4}$＋1糎。7　9線に垂直の線上にとる。

11　10＝17.5糎。

12　11＝3.5糎。

13　10＝4糎。2, 7, 13を曲線にて結ぶ。

14　13＝ヒップの深さ＋(後丈－脇丈)。

但し後丈と脇丈と同じ時にはヒップの深さ。

15　14＝後丈。

以上にてファウンデイションスカートの製圖を終りたるものにして,實際に用ふるには前後二布に,或は全體を四

布,或は六布に別ち,或は襞を取り,或はヨークを付くる等ディザインに應じて變化すべきものとす。二布の場合にはファウンデイションスカートに以下の諸線を加ふ。

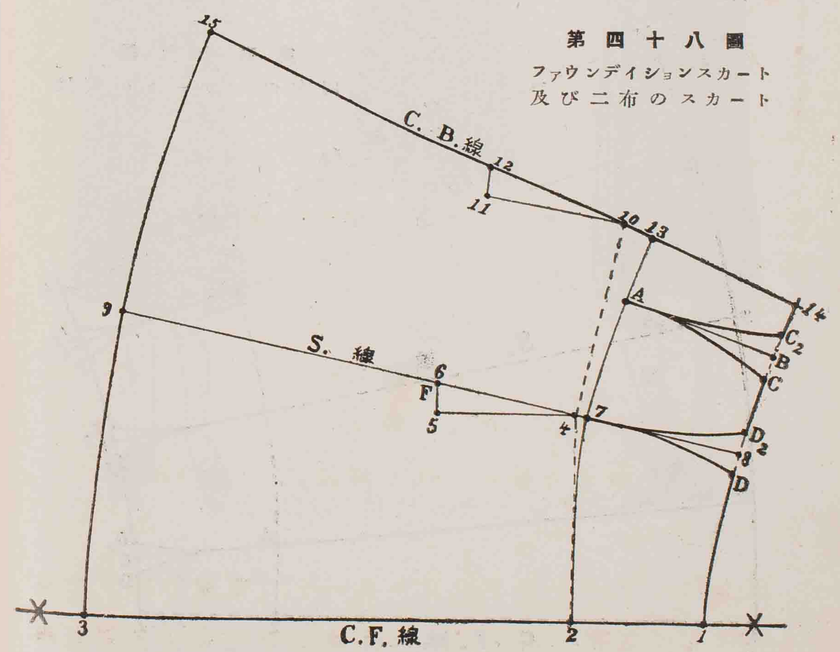
A　13＝$\frac{7\,13}{3}$。

B　14＝A 13－1.5糎。

C B, C_2B, D 8, $D_2$8, ＝(1 14－$\frac{ウエイスト}{2}$)÷4。

7 6 9 線は脇の縫目の位置。

C_2C 線はAの少しく上, D D_2線は7の少しく上にて合ふ樣にダートを畫く。



第四十八圖
ファウンデイションスカート及び二布のスカート

Ⅱ　四布のスカート（第四十九圖）

ファウンデイションスカートを寫し,後,前のパネル,左右の脇布の四布に分つ。

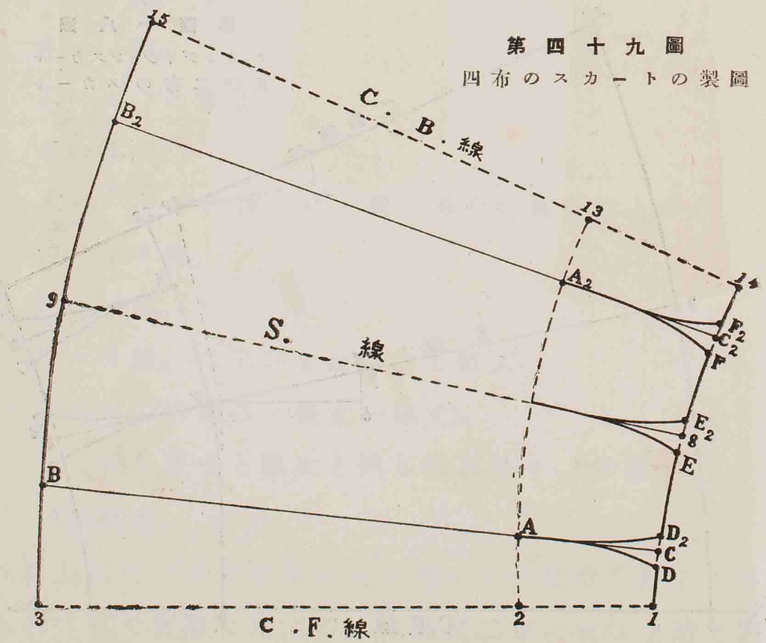
2　A及び13　$A_2=\frac{ヒップ}{12}$。

3　B及び15　$B_2=\frac{ヒップ}{12}+\frac{ヒップ}{48}$。

$CD, CD_2, 8E, 8E_2, C_2F, C_2F_2=(14-\frac{ウエイスト}{2})\div 6$。

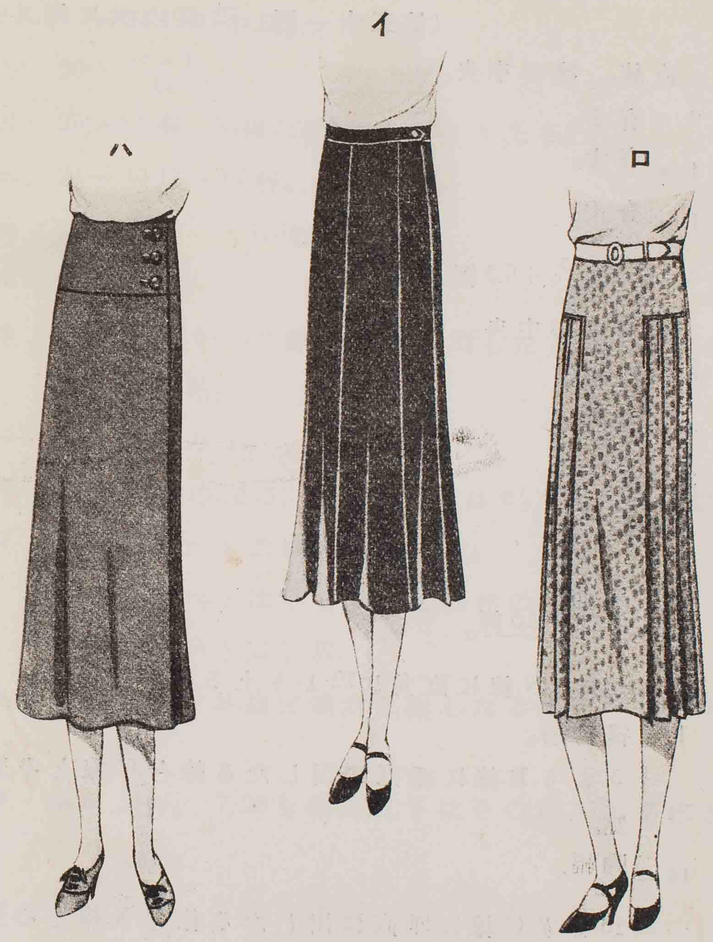
六布のスカートはS.線,卽ち脇にも縫目を付ける。卽ち出來上り圖第五十圖の(イ)の如し。

(ロ)圖及び(ハ)圖の如くヨークを付くる物の幅は凡そヒップの深さ位になす。



第四十九圖
四布のスカートの製圖

第五十圖
スカート出來上り圖



イ　六布のスカート
ロ　二布のヨーク付のスカート
ハ　二布の襞を取りたるスカート

第十八　ジヤケット及びコート(一重胸)

Single Breasted Jaket 及び Coat

(第五十一圖。72 頁の次に挿入)

XX＝直線。後の中央。

1　2＝脊丈。

3　1＝$\frac{脊丈}{2}$。

4　1＝$\frac{脊丈}{4}$。

5　3＝$\frac{バスト}{2}$＋6.5糎。

6　＝3 5の中央。

7　6＝0.7糎。

8　4＝$\frac{脊幅}{2}$。

9　3＝8 4。

10　8＝$\frac{8\ 4}{3}$。

11　10＝1.3糎。

12　1＝$\frac{ネック+2.5糎}{6}$。

13　12＝1.3糎。N.線に直角に12より上る。

13　1＝後衿肩。

14　＝5よりB.線に垂直に出したる線とC.線との交點。

15　14＝$\frac{胸幅}{2}$。

16　＝15よりC.線に垂直に出したる線とN.線との交點。

17　16＝$\frac{15\ 16}{3}$。

18　＝15よりC.線に垂直に出したる線とB.線との交

點。

19　＝C.F.線とN.線との交點。

20　＝16 19の中央。

20′　20＝$\frac{バスト}{64}$。

21　20′＝1.3糎。N.線に直角に20′より上る。

22　21＝13 11－0.7糎。

23　19＝$\frac{ネック}{6}$＋1.3糎。

24　23＝前丈。

25　＝2よりC.B.線に垂直に出したる線とC.F.線との交點。

25　24＝前後の差。

26　2＝ヒップの深さ。(但しH.線はヒップ線の略記號)

27　1＝ジヤケット或はコートの丈。

ジヤケットは手を垂れて拇指の先まで,コートはドレッスと同じ程。

28　＝7よりB.線に垂直に出したる線とH.線との交點。

29　28＝1糎。7,29を結ぶ。Yはその延長と裾線との交點。

30　28＝2糎。7,30を結ぶ。Y_2はその延長。

31　5＝27 3。

32　31＝24 25－(スカート後丈－スカート前丈)。

Y_3　7′＝Y　.7。